

事業番号	15 05 05	事業改善シート (27年度実施事業分)		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	「未来を拓く学力」の向上事業費			担当課	部局	教育委員会事務局	
総合5か年計画	プロジェクト	8-1-2 教育再生プロジェクト		課・室	教学指導課		
	施策の総合的展開	7-1 子ども一人ひとりの個性や能力を伸ばす学校教育の充実		E-mail	kyogaku@pref.nagano.lg.jp		
		1 未来を切り拓く学力の育成		実施期間	H24 ~		

1 事業の概要

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校に重点を置き、学力向上を図る ・家庭を巻き込み、新たな家庭学習の充実を図る 		
現状 (予算編成時)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査結果では、中学校においては国語Aを除き全国平均を下回った。国語B 全国67.4 長野県65.9(-1.5) 数学A 全国63.7 長野県61.9(-1.8) 数学B 全国41.5 長野県40.2(-1.3) ・長野県の中学生は家庭学習の時間が少なく、家庭学習で予習・復習を行っている割合も少ない。2時間以上学習 全国35.1% 長野県28.5% 予習を行う 全国34.2% 長野県20.3% ・放課後を利用した補充的な学習サポートが少ない。週に1回以上実施 全国22.3% 長野県15.4% 		
県が関与する理由	県関与の必要性あり	【左記の説明、根拠法令等】 児童生徒に確かな学力を身に付けさせるためには、学年の系統的指導や家庭学習の充実を図ることが必要であり、県が継続して関与していく必要がある。	
	県民との協働による実施:	検討中	

成果目標・事業内容	① 成果目標 (H27)						
	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的な内容の定着度が全国平均より高い児童生徒の割合: H29年度小65% 中60%に向け、H27年度小63.7%以上 中58.6%以上とする。 ・学習したことを実生活の場面に活用する力が全国平均より高い児童生徒の割合: H29年度小60% 中56%に向け、H27年度小59.2%以上 中55.1%以上とする。 						
	② 事業内容 (単位:千円)						
		項目	実施方法	H27事業実績	H27 (当初)	H27 (決算)	H28 (当初)
		学力スパイラルアップ事業	直接	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の系統的指導を強化したPDCAサイクルづくりの再構築 ・学力向上対策会議の開催 ・学力向上に関する外部検証委員会の設置 ・学力向上フォーラムながのの開催 	3,307	3,129	3,802
	新たな家庭学習モデル創出事業	直接	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル校による協働研究を通じた3つの家庭学習モデル(地域ボランティア活用モデル、課題追究型モデル、小中連携モデル)の構築 ・公開シンポジウムの開催 	324	278	0	
	理数教育充実事業	直接	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の力を伸ばす実験実技講習会(小学校理科教員のための観察・実験出前講習会、一流講師に学ぶ中学校理科教員の実験実技講習会)の開催 ・中学生サイエンスグランプリの実施 ・S1グランプリ(算数数学問題作成コンテスト・問題解決コンテスト)の実施 	1,262	1,262	1,345	
	学力格差解消に向けた補充的な学習サポートモデル構築事業	直接	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が部活動指導を行うことにより部活動顧問である教員が補充的な学習サポートを実施 	500	248	500	
			合計	5,393	4,917	5,647	

事業コスト	区分(単位:千円)	25年度	26年度	27年度	28年度	成果目標の達成状況						
	予算額	前年度繰越					項目	H26末(実績)	H27			H28目標
		当初予算	5,804	4,397	5,393	5,647			目標	成果	達成状況	
		補正予算		600			基礎的基本的な内容の定着度	小65.3% 中58.1%	小63.7%以上 中58.6%以上	小62.6% 中55.5%	未達成	小64.4% 中59.3%
		合計(A)	5,804	4,997	5,393	5,647						
	Aの財源	一般財源	5,804	4,182	4,960	5,135	学習したことを実生活で活用する力	小59.5% 中54.7%	小59.2%以上 中55.1%以上	小55.9% 中49.2%	未達成	小59.6% 中55.6%
		県債										
		国庫支出金										
		その他(繰入金等)	0	815	433	512						
	決算額(B)	4,983	4,832	4,917								
概算人件費	職員数(人)	3.00	3.00	3.00	3.00							
	概算人件費(C)	24,774	24,774	24,828	24,828							
概算事業費(B(A)+C)	29,757	29,606	29,745	30,475								

目標に対する成果の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の平均正答率が下がったこともあり、目標達成に至らなかった。知識技能の定着を図るための授業改善や補充学習を一層重視するとともに、身に付けた知識技能を生かした話し合いや課題を探究していく場を授業の中で充実させたい。
-------------	--

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施 <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査とP・C調査を組み込んで早期に学力実態を把握し、授業改善を進めるPDCAサイクルを再構築し、学力向上を図る。 ・理数系学力の卓越性を伸長するための各種競技を充実させ、理数の伸びる力を一層伸ばす。 ・放課後における学習サポートを充実させるため、補充的な学習サポートモデル校を増やし実践を集積するとともに、県内へ周知する。
--------------------	---